

2・1 微生物科

2・1・1 調査研究

〔調査研究事業〕

前年度に引続き「ウイルス感染症の疫学調査」として794名の検査を実施し、その結果を取りまとめた。(調査研究事業報告P.37、P.87)

同じく「下痢症原因菌の調査」として、毎月河川水、下水6定点から採水して細菌検査を実施し、その結果をまとめるとともに併せて「カンピロバクターと大腸菌の水中での共生実験」について取りまとめた。(調査研究報告P.41)

〔調査研究〕

母子間感染ウイルスのうち風疹ウイルス、サイトメガロウイルスについて、妊婦の抗体保有状況を調査し、その結果を取りまとめた。(調査報告P.97、P.106)

また、小児におけるHBVの関連抗原抗体保有状況を調査し、その結果を取りまとめた。(調査報告P.91)

2・1・2 試験検査

〔行政委託検査〕

1. 伝染病流行予測調査

(1) インフルエンザ感染源調査

72名(うち集団発生分35名)の患者材料からウイルスの分離と、32名(集団発生分)の患者ペア血清について4抗原に対するHI抗体検査を実施した。

表1に示すように、7名(うち集団発生分1名)からウイルスが分離され、すべてA(H₁N₁)型ウイルスであった。血清診断陽性例もすべてA(H₁N₁)型であり、今季のインフルエンザはAソ連型ウイルスによる流行であることが判明した。なお、国立予研で行った2代表株の抗原分析結果は表2のとおりである。

また、学校、保育園などの集団発生期間は12月19日～1月27日、患者数は延660名であり、本県としては小規模の流行で終息した。

表1 インフルエンザ感染源調査

調査年月	調査員	ウイルス分離		血清診断 陽性者数/被検者数			
		分離数/検体数	分離株型	A/Bangkok/ 10/83(H ₁ N ₁)	A/FUKUOKA/ C-29/85 (H ₃ N ₂)	A/TOTTORI /1/87 (H ₁ N ₁)	B/IBARAKI /2/85
1986.12	9	3/9	A (H ₁ N ₁)				
1987.1	55	3/55	A (H ₁ N ₁)	7/32	0/32	12/32	0/32
1987.2	8	1/8					
合計	72	7/72	A (H ₁ N ₁)	7/32	0/32	12/32	0/32

血清診断陽性～急性期血清に対し回復期血清抗体価が4倍以上上昇したもの。

表2 インフルエンザ分離株の抗原分析

(予研)

フェレット感染血清 ウイルス抗原	A/Brazil/11/78	A/Bangkok/ 10/83	A/山形/120/86	A/横浜/4/86
A/Brazil/11/78	512	128	32	32
A/Bangkok/10/83	256	512	32	32
A/山形/120/86	32	64	2,048	1,024
A/横浜/4/86	32	32	1,024	1,024
A/鳥取/1/87	32	128	2,048	1,024
A/鳥取/4/87	32	64	1,024	1,024

(2) 日本脳炎感染源調査

県内産の豚160頭についてHI抗体価を測定し、抗体価40倍以上の血清は2ME感受性抗体検査を行った。

表3に示すように、7月21日採血分に初めて抗体が認められ、抗体保有率は9月8日採血分の75%が最高であった。2ME感受性抗体保有率は、8月11日採血分100%(1/2頭)、同じく8月25日33%(1/3頭)、9月9日47%(1/2頭)であった。これによる本県の日本脳炎汚染推定地区の判定は9月上旬頃であるが、疑似も含めて日本脳炎患者の発生はなかった。

表3 日本脳炎感染源調査

採血月日	検査頭数	H I 抗体価							抗体保有率 (%)	2ME感受性抗体保有率 / 陽性頭数 / 被検頭数 (%)	飼育地別抗体保有状況 抗体保有頭数 / 検査頭数
		<10	10	20	40	80	160	320			
7月1日	20	20							0.0	0/0(0.0)	米子市 0/10 赤碕町 0/10
7月14日	20	20							0.0	0/0(0.0)	東伯町 0/10 赤碕町 0/10
7月21日	20	18	1	1					10.0	0/0(0.0)	中山町 2/10 倉吉市 0/10
8月4日	20	13	5	2					35.0	0/0(0.0)	米子市 5/10 名和町 2/10
8月11日	20	19				1			5.0	1/1(100.0)	大山町 0/10 北条町 1/10
8月25日	20	15	1	1	1	1	1		25.0	1/3(33.3)	東伯町 1/10 西伯町 4/10
9月8日	20	5			2	7	3	3	75.0	7/15(47.0)	倉吉市 5/10 関金町 10/10
9月16日	20	18	1			1			10.0	0/1(0.0)	東伯町 0/10 境港市 2/10

2. 感染症サーベイランスのウイルス分離

県内13定点医療機関で採取した834名の検体について実施したウイルスの分離状況は、表4に示すとおりである。なお、昭和61年1～3月の116名の検体における分離状況も表5に登載した。

ウイルス分離率は31.2%(61年1～3月は48.8%)であり、本年度の特長は無菌性髄膜炎でエコーウイルス7型が、インフルエンザでAソ連型ウイルスが多く分離されたことである。

3. 食中毒検査

県内で発生した食中毒及びその関連事例の検査はすべて当所で行っているが、本年度は7事例230検体の検査を実施し、3事例が食中毒と判断された。(表6)

4. 畜水産物中の残留抗生物質検査

食肉28件、養殖魚2件について、4抗生物質の残留検査を行ったが、すべて残留は認められなかった。(表7)

5. 食品細菌検査

収去食品20件の細菌検査を実施したが、規格基準違反は認められなかった。また、保健所から委託された食品由来細菌同定検査19件を行った。

表 4 感染症サーベイランス対象疾病からのウイルス分離状況（1986年4月～1987年3月）

疾病名	検査人員	麻疹様疾患	風疹	水痘	流行性腺炎	百日咳様患	異型肺炎	感染性腸炎	乳下児嘔吐症	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様疾患	MCLS	咽頭結膜炎	流行性結膜炎	無菌性炎症	脳脊髄炎	陰嚢部	合計
Adeno virus type 1		4	116	4	161	3	1	40	108	9	32	20	70	25	2	14	12	203※(40)	2	8	834
Adeno virus type 2									4			1	1					1			1
Adeno virus type 3												1		4		7	1	2			9
Adeno virus type 4												1				1					15
Adeno virus type 5			1																		1
Coxsacki virus A type 6																					1
Coxsacki virus A type 9																		2			1
Coxsacki virus B type 1													1								2
Coxsacki virus B type 3			2		2								3					8			15
Echo virus type 7		1											2					39			44
Echo virus type 9																		1			1
Polio virus type 3									2												2
Enterovirus 71										1											1
Mumps virus					94													13			107
Herpes virus type 1													1							3	5
Herpes virus type 2																				2	2
Herpes virus not type											1	1	5					1		1	10
Influenza A 7連									32					10							10
Rota virus																					32
合計		0	4	0	97	0	0	0	38	1	1	3	14	14	0	10	2	70	0	6	260
分離率 (%)		3.4		0	60.2				35.2	11.1	3.1	15.0	20.0	56.0		71.4	1.7	34.5		75.0	31.2

※ () はムンプス性髄膜炎

表5 1986年1月～3月の感染サーベイランス対象疾病ウイルス分離状況

疾病名	検査人員	風	流行性耳下腺炎	百日咳様疾患	感染性胃腸炎	乳児嘔吐下痢症	手足口病	突発性発疹	ヘルパンギーナ	インフルエンザ様疾患	M C L S	無菌性髄膜炎	脳脊髄炎	合計
		19	22	2	21	74	1	2	2	1	4	17 *(8)	1	166
Adeno virus type 1						3								3
Adeno virus type 2						3								3
Adeno virus type 6						1				1				2
Entero virus type 71							1							1
Polio virus type 1						1								1
Polio virus type 3						1								1
Mumps virus			15									3		18
Rota virus						51					1			52
合計		0	15 68.2	0	0	60 81.1	1 100.0	0	0	1 100.0	1 25.0	3 17.6	0	81 48.8

※()はムンプス性髄膜炎

表6 昭和61年食中毒事例発生一覽表

番号	発生日	発生場所	摂取者数	患者数	死者数	原因食品	原因物質	原因施設	摂取場所	調理場所
1	5月25日	小学校・自宅	253	170	0	おにぎり弁当	腸炎ビブリオ (O4・K12)	仕出屋	小学校・自宅	仕出屋
2	10月1日	鳥取市他	71	38	0	不明	腸炎ビブリオ (O4・K4)	旅館	旅館	旅館
3	10月4日	鳥取市他	86	20	0	会席料理	腸炎ビブリオ (O4・K4)	旅館	旅館	旅館
合		計	410	228	0					

表7 畜水産物中の残留抗生物質検査

抗生物質	検体種別					検出検体数/検査検体数	
	牛	肉	豚	肉	鶏	肉	養殖魚(ヤマメ・マス)
クロラムフェニコール	0/5		0/13		0/10		0/2
クロルテトラサイクリン	0/5		0/13		0/10		0/2
オキシテトラサイクリン	0/5		0/13		0/10		0/2
ジドトロステプトマイシン	0/5		0/13		0/10		0/2
計	0/20		0/52		0/40		0/8

6. 環境基準による水の細菌検査

湖沼、海域水 540 件につき大腸菌群検査を行った。

7. その他の委託検査

牛炭疽菌検査 2 件、伝染病病原菌保菌検査 2 件、人由来病原菌同定検査 8 件について検査を実施した。

〔窓口受託検査〕

1. 風疹 H I 抗体検査

1,297 名(前年度 1,908 名)について抗体検査を行った(米子保健所管内で風疹予防対策事業として実施されている 20~40 才の女子 892 名の抗体検査を含む)。

抗体保有率(抗体価 8 倍以上)は 67.2%でそのうち 72%は抗体価 32~128 倍であり、抗体価 512~1,024 倍が 24 名あることから、散発的小規模流行の存在が推察される。

表 8 風疹 H I 抗体保有状況(窓口受託)

調査人員	H I 抗体価								
	<8	8	16	32	64	128	256	512	1,024≤
1 2 9 7	426	48	113	221	260	143	62	22	2
(%)	(32.8)	(3.7)	(8.7)	(17.0)	(20.0)	(11.1)	(4.8)	(1.7)	(0.2)

年令別抗体保有状況は、20~23才が85~100%と保有率が高いのは、定期ワクチン接種の効果と考えられる。その他の年令では24才、28才、29才が僅かに高いほか46~50%の低保有率であり、ワクチン接種などの対応が必要と考える。

表 9 女子年令別風疹 H I 抗体保有状況

年令(才)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
抗体保有者数 / 被検者数	0/7	2/13	2/31	3/47	22/94	60/121	71/133	47/94	33/90	37/68	47/87
(%)	(100.0)	(84.6)	(93.5)	(93.6)	(76.6)	(50.4)	(46.6)	(50.0)	(63.3)	(60.3)	(46.0)

2. 梅毒血清検査(表10)

妊婦 334 名、一般 128 名について検査を行ったが、緒方法定量検査の 4 名を除いて各方法とも陽性者はいなかった。

表10 梅毒血清反応

検査方法	一般	妊婦	計
ガラス板法	67	0	67
ガラス板・緒方法	1	325	326
ガラス板・凝集・緒方法	24	9	33
T P H A 法	32	0	32
緒方法定量	4	0	4
合計	128	334	462

3. HBs抗原検査

「B型肝炎母子感染防止対策事業」に関連して335件の検査を行ったが、抗原陽性は8件(2.4%)であった。

4. その他ウイルスの血清検査

麻疹、アデノ、インフルエンザの抗体検査委託が39件あり、これを行った。

5. 病原細菌分離同定検査

結核菌塗抹培養検査58件、腸管系病原細菌同定検査7件を実施した。

6. 医療用具、医薬品検査

尿道カテーテル28件、保存血液20件の無菌試験委託があり、細菌否定試験及び真菌否定試験を行った。

7. 水の細菌検査

飲料水、河川水、排水などの検査委託があり、56件の細菌検査を行った。

2・2 食品化学科

2・2・1 調査研究

〔調査研究事業〕

現在使用禁止となっているBHC、DDT、デイルドリン等有機塩素系農薬の残留量調査のため昭和58年度から昭和61年度まで「畜産物中の有機塩素系農薬残留量実態調査」を実施し、その結果をとりまとめた。(調査研究事業報告P.)

〔調査研究〕

環境庁委託事業として「生物指標環境汚染測定調査」を実施した。

2・2・2 試験検査

(行政委託調査)

1. 家庭用品試験

洗浄剤12検体、繊維製品26検体について定められた基準項目試験を行ったが、すべて基準に適合していた。

表1 家庭用品試験結果

試験項目	検体名	検体数	基準試験結果	
			適	不適
塩化水素又は硫酸	住宅用洗浄剤	3	3	0
水酸化カリウム又は水酸化ナトリウム	住宅用 } 洗浄剤 家庭用 }	3	3	0
容器強度試験	住宅用 } 洗浄剤 家庭用 }	6	6	0
ホルムアルデヒド	乳幼児用繊維製品	16	16	0
デイルドリン	繊維製品	10	10	0
計		38	38	0

2. 食品衛生試験

(1) 食品添加物試験

タール色素製剤3件の成分規格試験及び食肉中のニコチン酸、ニコチン酸アミドの含有量試験28件を行ったが、タール色素製剤は基準に適合し、また食肉はニコチン酸、ニコチン酸アミドを添加されたと思われるものはなかった。

表2 食肉のニコチン酸、ニコチン酸アミド試験結果 (単位: mg/100g)

種類 検数	牛 肉	牛肉ハン	牛豚合挽	牛豚合挽	牛豚馬合	豚 肉	計
	ミンチ	バーグ	ミンチ	ハンバーグ	挽ミンチ	ミンチ	
区分	8	2	11	1	1	5	28
ニコチン酸	ND	ND	ND	ND	ND	ND	
ニコチン酸 アミド	0.89 } 4.58	0.72 } 0.96	2.38 } 4.44	1.86	4.13	2.89 } 5.16	

(注) ND: 不検出

(2) 食品の残留農薬試験

野菜、果実、米等7品目37件について、延べ25農薬の残留量試験を行ったが、すべて基準に適合していた。

表3 食品残留農薬試験結果

(単位：ppm)

区分	検査月	検体数	ヒ素(As ₂ としてO ₃)	鉛	総BHC	総DDT	パラチオン	デアイルドリン(含む)	エンドリン	EPN	マラチオン	ダイアジノン	カルバリル	シコホール	クロルベンジレート	フェントロチオン	フェンチオン	トリシクロヘキシル	ジクロルボス	ジメトエート	フェントエート	キヤプタン	キヤプタホール	クロルフェンピホス	クロルピリホス	ホサロン	備考	不適数
いちご	5	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
きゅうり	6	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
茶*	6	1	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
すいか	7	4	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
ぶどう	8	4	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
二十世紀梨	8	8	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
かき	10	5	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
玄米	11	8	—	—	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND	0	
合計		38																										

(注) —：成分規格基準のないもの、ND：不検出、※：窓口受託

(3) 牛乳の有機塩素系農薬試験

県内産牛乳3件について含有量試験を行ったが、暫定的許容基準を上回るものはなくほぼ前年度並みの数値を示した。

表4 牛乳の有機塩素系農薬試験結果

(単位: ppm)

区分	検査月数	α-BHC	β-BHC	γ-BHC	δ-BHC	Total BHC	P,P'-DDE	P,P'-DDD	P,P'-DDT	Total DDT	デイルドリン	備考
牛乳	4 3	0.0005	ND			0.0005	0.0007			0.0007		学校給食用
		∧ 0.0006 (0.0005)	∧ 0.0005 (0.0002)	ND	ND	∧ 0.0011 (0.0007)	∧ 0.0008 (0.0008)	ND	ND	∧ 0.0008 (0.0008)	ND	
暫定許容基準			0.2							0.05	0.005	

注) 上段: 最低値、下段: 最高値、() : 平均値、ND: 不検出、Tr: 0.0005未満

(4) 畜産物中の残留物質試験

肉類8件、養殖魚2件について合成抗菌剤のサルファ剤及びエトパベートの残留量試験を行ったが、すべて検出されなかった。

表5 畜水産物中の合成抗菌剤試験結果

(単位: ppm, Whole Base)

合成抗菌剤	総件数	鶏肉 (件数)	豚肉 (件数)	牛肉 (件数)	養殖魚 (件数)
サルファ剤	スルファモノメトキシ	10	ND (3)	ND (3)	ND (2)
	スルファジメトキシ	10	ND (3)	ND (3)	ND (2)
	スルファキノキサリン	10	ND (3)	ND (3)	ND (2)
エトパベート	10	ND (4)	ND (6)		

注) ND: 不検出

(5) PCB及び水銀の含有量試験

魚介類20件についてPCB、水銀の含有量試験と肉類8件、鶏卵2件についてPCBの含有量試験を行ったが、すべて暫定的規制値を下回っていた。

表6 魚介類のPCB・総水銀結果

(単位: ppm)

検体名	検体数	P C B 試験結果				総水銀試験結果			
		暫定的規制値	検出範囲	平均値	不適数	暫定的規制値	検出範囲	平均値	不適数
遠洋沖合魚介類	14	0.5	ND ~ 0.05	0.012	0	0.4	0.01 ~ 0.09	0.050	0
県内水揚	6		ND ~ 0.02	0.005	0		0.01 ~ 0.09	0.041	0
県外水揚	8		ND ~ 0.05	0.017	0		0.02 ~ 0.08	0.057	0
内海内湾魚介類	6	3.0	0.01 ~ 0.07	0.031	0	0.4	0.03 ~ 0.19	0.066	0
県内水揚	4		0.01 ~ 0.03	0.022	0		0.03 ~ 0.07	0.045	0
県外水揚	2		0.03 ~ 0.07	0.05	0		0.03 ~ 0.19	0.110	0
計	20		ND ~ 0.07	0.018	0		0.01 ~ 0.19	0.055	0

(注) ND: 不検出

表7 その他のPCB試験結果

(単位: ppm)

検体名	暫定的規制値	検体数	P C B 試験結果		
			検出範囲	平均値	不適数
肉類	0.5	8	ND	ND	0
卵類	0.2	2	ND	ND	0
計		10			0

(注) ND: 不検出

〔窓口受託検査〕

茶1件について残留農薬試験を行ったが、基準に適合していた。また豆腐類2件について栄養成分定量試験を行った。

2・3 水質調査科

2・3・1 調査研究

〔調査研究事業〕

昭和60年度から実施している「湖沼の汚濁機構の調査」を1,148件4,734項目の試験を行った。

〔調査研究〕

環境庁の委託事業として東郷池について「モデル湖沼水質保全計画策定調査」の水質、底質、プランクトン、生産量の調査を847件4,131項目実施し報告書として取りまとめた。

2・3・2 試験検査

行政委託検査1,352件9,408項目、窓口受託検査64件383項目、合計1,416件9,791項目の試験検査

を実施した。

表1 試験検査実施状況

事業名	行政機関		事業所		合計	
	件数	項目	件数	項目	件数	項目
水質常時監視調査	580	5,787			580	5,787
河川のP C B分析	52	52			52	52
海域の健康項目、油分の分析	24	96			24	96
中海水質監視強化調査	616	3,100			616	3,100
ダムの水質調査	39	248			39	248
港湾、漁港の底質検査	41	125			41	125
河川、ダムの水質検査	48	256			48	256
その他の底質、水質検査	11	74	5	53	16	127
計	1,411	9,738	5	53	1,416	9,791

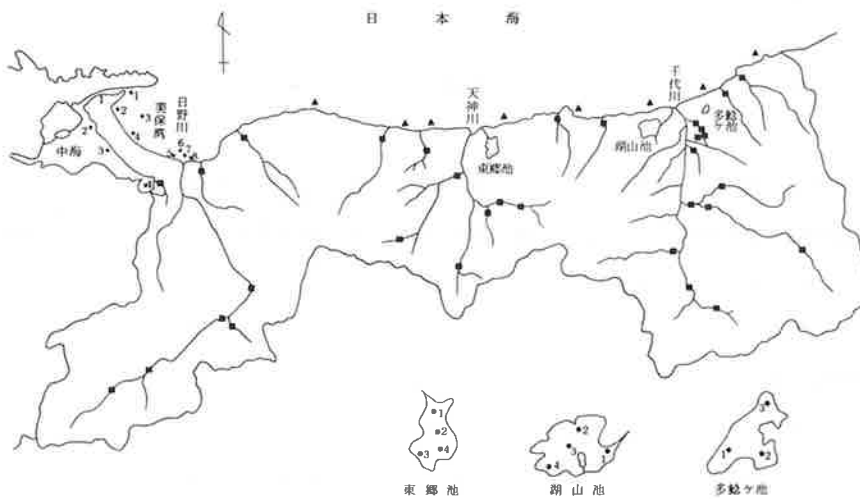


図1 水質測定地点図

- 採水、分析：衛生研究所
- ▲ 採水：水産試験場、分析（健康項目、油分、大腸菌群数）：衛生研究所
- 採水：保健所、分析（P C B）：衛生研究所

〔行政委託検査〕

1. 水質常時監視調査

水質汚濁防止法第16条に基づき湖山池、東郷池、中海、美保湾（毎月1回）および多鯨ヶ池（年4回）の5水域27地点（図1 水質測定地点図）の水質調査を580件5,787項目実施した。PH、CODなどの概要について記述する。（測定結果は附表P.120参照）なお、健康項目（カドミウム、シアン、有機リン、鉛、六価クロム、ヒ素、総水銀、アルキル水銀、PCB）は、すべて環境基準に適合しており、水質は清浄である。また、大腸菌群数の分析は微生物科が担当した。

- (1) 湖山池：DOは環境基準を満足しているが、PH、COD、SS、大腸菌群数のいずれも環境基準を満足していない。CODの75%値で見れば6.1~8.5 mg/ℓで類型Cとそれより悪い水質である。また、上層と下層はCODとT-Nが上層が若干高値で、CI⁻、T-Pは両者の差はみられない。
- (2) 東郷池：PH、DOは環境基準を満足しているが、COD、SS、大腸菌群数は環境基準を満足していない。CODの75%値は4.8~5.7 mg/ℓで類型Bに相当している。上層と下層はCOD、T-N、T-Pは余り差はないが、CI⁻は下層が高値を示している。
- (3) 中海：中海の調査地点は8地点であるが、中海の水質を基準地点4地点について記述する。PH、DO、COD、SS、大腸菌群数のいずれも環境基準を満足していない。しかし、CODは75%値がSt.4（米子湾中央部）は6.1 mg/ℓ他の3地点は3.1~3.7 mg/ℓで、類型Cと類型Bに相当している。COD、T-N、T-Pは、いずれも境水道中央部から米子湾中央部に行くに従って高値となっている。上層と下層の水質をCI⁻とCODについて見れば、CI⁻は米子湾中央部では余り変らないが境水道中央部、小篠津町地先、葭津地先では下層が上層より高値を示している。CODはCI⁻と反対に上層が下層より高値を示し、特に米子湾中央部で汚濁している。
- (4) 美保湾：類型Aの水域は、6地点はDOを除いては環境基準を満足しているが、境水道中央部は環境基準を満足していない。類型Bは1地点で環境基準を満足している。CODの75%値を1.2~2.1 mg/ℓで前述の1地点を除いて類型Aに相当している。
- (5) 多鯨ヶ池：6月、9月、10月および3月に調査した。CODの年平均値は3.2~3.5 mg/ℓで類型Bに相当している。

2. 河川のPCB分析

千代川、天神川、日野川など13河川のPCB分析を52検体52項目を行ったが、すべての地点で検出されなかった。

3. 海域の健康項目、油分の分析

日本海沿岸海域の健康項目、油分分析を24検体96項目行ったが、すべて環境基準に適合しており、水質は清浄であった。

4. 中海水質監視強化調査

中海について水質常時監視調査の補足調査として深度別の水温、DO、塩分、水比抵抗調査など616検体3,100項目を実施した。

5. ダムの水質調査

佐治川ダム、百谷ダムについて透明度、BODなど水質を39検体、248項目の調査を行った。

6. 港湾、漁港の底質検査

鳥取、赤碕、田後の各港湾の底質の水銀、PCBなどについて11検体、33項目、東、夏泊、網代、境などの12漁港の底質30検体92項目の分析を行った。

〔窓口受託検査〕

1. 河川、ダムの水質検査

八東川、春米ダム、小鹿ダムの水質のPH、BODなど48検体256項目の検体を行った。

2. その他の底質、水質検査

境港、鳥取港、湖山池の底質の水銀、PCBなど16検体127項目の検査を行った。

2・4 水質環境科

2・4・1 調査研究

〔調査研究事業〕

新規事業として、3か年計画で「排水試験におけるBODに及ぼす硝化作用の影響」を取上げ、文献の検討、予備試験を行った。

〔調査研究〕

県事業として「簡易処理施設による生活雑排水の調査」について、本年度は湖山池湖畔の一集落を対象に台所用汚過袋を使用した調査16件192項目を行った。(調査研究報告P.108)

また、例年同様温泉の適切な管理に必要な資料を得るため、県下全源泉について「温泉実態調査」240件1,245項目の調査を行った。(調査結果は附表P.132を参照)

環境庁委託事業としては「トリクロロエチレン等汚染実態調査」を企業排水33件132項目の調査を行った。

また、同庁委託による「モデル湖沼水質保全計画策定調査」では、東郷池の流出入河川151件2,156項目、旅館排水47件642項目の調査を担当した。

2・4・2 試験検査

一般依頼による窓口受託は、飲用水適否試験では、水道水15件、井戸水9件、利用水15件、下排水は73件、産業廃棄物は12件、鉱泉分析は10件の検査を行った。

2・4・3 廃液処理

県東、中部地区の試験研究機関、病院、高等学校の有害物質含有廃液8,000ℓを処理した。

2・5 大気騒音科

昭和61年度に行った試験検査は次のとおりである。

表1 試験検査実施状況

事 項	区 分		依 頼		自 か ら		計	
	行 政		件 数	項 目 数	件 数	項 目 数	件 数	項 目 数
大気汚染監視	4,320	97,953					4,320	97,953
煙道排ガス測定	20	120	5	5	5	17	30	147
重油中の硫黄分析	193	193	24	24			217	217
自動車公害調査	194	1,791					194	1,791
悪臭調査	5	30	13	13	47	254	65	321
航空機騒音調査	63	63					63	63
放射能調査	965	9,727			53	96	1,018	9,823
そ の 他	1	4	6	6	302	273	309	283
計	5,761	109,881	48	77	407	640	6,216	110,598

2・5・1 調査研究

〔調査研究事業〕

前年度に引き続き「悪臭発生施設における臭気濃度実態調査」として、臭気の機器分析と臭気濃度調査47件 254項目を測定し、過去2カ年の調査結果をとりまとめた。（調査研究事業報告P. 65）

また、本年度から「酸性雨成分分析調査」に取り組み、基礎データ 302件 273項目の収集を行った。（調査研究事業報告P. 76）

なお、前年度で終了した「固定発生源ばいじん中の重金属成分について」の調査研究の結果をとりまとめた。（調査研究事業報告P. 79）

〔調査研究〕

環境庁の事業による「昭和61年度環境測定分析統一精度管理調査」に参加した。また、科学技術庁委託事業として「環境放射能測定調査」を行った。

詳細については「陸水、各種食品及び土壌の放射能測定調査結果報告書（29）」に収録した。

本年度は4月26日に発生したソ連チェルノブイル原子力発電所事故の影響を受け、降水、降水物、大気浮遊じんに一時的（約1週間）強い放射能が検出された。また土壌（表層土）にもその影響があったことがうかがわれた。

表2 放射能調査項目及び対象別測定結果

調査項目及び対象		採取地点	件数	測定値	備考	
全	降水・陸水	降水	鳥取市松並町	123	ND~1,200pCi/ℓ	定時観測
		降下物 (雨・ちり)	〃	12	4.4~287.1mCi/km ² /日	大型水盤法
		上水	〃	10	ND	(蛇口水)
		〃	鳥取市叶	7	ND	(原水)
放射能	食品	日常食	岩美郡福部村	2	0.7, 0.8pCi/g 生	
		牛乳	米子市	7	1.1~1.2 〃	
		米	鳥取市	2	0.5 〃	
		野菜	岩美郡国府町	2	1.7 〃	(大根)
		〃	倉吉市北野	2	3.1~3.3 〃	(ほうれん草)
		海水魚	(境港市)	2	2.3~2.7 〃	(さば)
		その他	大気浮遊じん	鳥取市松並町	66	0.1~9.1 pCi/m ³
核種分析	131I 137Cs	牛乳	米子市	6	2.1~22.5pCi/ℓ 生	機器分析法
		〃	〃	6	2.4~54.5 〃	〃
空間線量		鳥取市松並町	通年	10.0~31.0 cps	モニタリングポスト法	
		鳥取市岩倉	12	9.8~12.2μR/hr	サーベーター法	

※食品の測定値は、Kを含んだ値 ND: 検出されず(計数値が標準偏差の3倍以下)

2・5・2 試験検査

[行政委託検査]

1. 大気汚染監視

本年度も、当所に設置されている自動測定局を運用して、硫酸化物など13種類 4,320件97,953項目の測定を実施し、大気汚染状況を常時監視した。(測定結果は附表P. 134を参照)

これらのうち、公害対策基本法により定められた環境基準を超えたものはOxのみであったが、その時間数は昨年度の84時間に比べ312時間と激増し、昭和57年度から5カ年の昼間最高1時間値の平均値も増加している。この要因については今後の課題である。

表3 環境基準を超えた時間数及び日数

物質名	基準	月					
		4	5	6	7	8	
光化学オキシダント	1時間値 0.06ppm以下	57時間 (14日)	114時間 (16日)	75時間 (14日)	16時間 (3日)	2時間 (2日)	
9	10	11	12	1	2	3	計
32時間 (6日)	8時間 (2日)	3時間 (1日)	— —	— —	— —	5時間 (1日)	312時間 (59日)

(注) 昼間時間とは、5時から20時までの時間帯(1時間値としては6時から20時)

表4 オキシダント(Ox)における昼間最高1時間値の年平均値

年 度	S.57	S.58	S.59	S.60	S.61
年平均値 ppb	40.7	43.6	43.6	46.9	49.2

2. 煙道排ガス測定

東部及び中部管内における煙道排ガスの測定を担当し、20件120項目について実施したが、C重油ボイラーの1施設でSO_xが基準を超えていた外は、全て基準値以内であった。

測定結果については年間測定分を窓口受託検査及び自主検査と一括して載せた。

表5 煙道排ガス測定結果

施設	項目	ばいじん g/m ³ N (g/m ³ N) ^{*1}	SO _x K値 ^{*2} (ppm) ^{*3}	NO _x cm ³ /m ³ N (ppm) ^{*3}	HCI mg/m ³ N (ppm) ^{*3}	O ₂ %	温度 ℃	平均 流速 m/s	水分量 %	On 値	
											n
ボイラー	A重油	n	8	6	8	—	6.7	110	1.2	4.2	4
		R	0.00~0.06 (0.00~0.13)	0.2~4.6 (88~260)	40~130 (23~56)	—	~14.2	~287	~11.5	~9.9	
	B重油	n	7	6	7	—	5.7	71	2.5	6.1	4
		R	0.03~0.19 (0.04~0.32)	0.4~5.5 (440~770)	100~140 (69~110)	—	~11.8	~329	~8.2	~10.3	
	C重油	n	5	5	5	—	3.5	167	3.6	8.0	4
		R	0.12~0.25 (0.13~0.29)	4.8~24.1 (700~1,130)	110~170 (100~140)	—	~9.7	~298	~15.6	~12.4	
廃棄物焼却炉	n	3	2	3	2	14.1	28	1.3	4.3	12	
	R	0.04~0.36 (0.06~0.48)	0.1, 0.2 (34, 40)	60~110 (37~85)	Tr, 550 (Tr, 260)	~15.0	~282	~22.7	~29.4		
骨材乾燥炉	n	1	1	1	—	16.0	94	13.3	7.9	16	
	R	0.02 (0.03)	3.7 (120)	30 (35)	—	—	—	—	—		

(注) n:測定数 R:範囲 Tr:定量限界以下

*1:On換算値 *2:鳥取県のK値は17.5 *3:実測値

3. 重油中の硫黄分測定

大気汚染防止法に基づく硫黄酸化物の排出基準に係る適合状況について、県内193施設の使用燃料重油の抜き取り検査を(放射線式透過法により)行った。

なお、収去されたものの中に魚油及び廃油等が9検体あったが、前記方法では分析不能のため除外した。

表6 重油中の硫黄分測定結果

種類	検体数	硫黄分 Wt %	
		範囲	平均
A	119	0.08 ~ 0.85	0.58
A + B	1	1.62	
B	45	1.23 ~ 1.86	1.53
C	19	1.58 ~ 2.28	1.93
合計	184		

材料不適：魚油及び廃油等が9検体

4. 自動車公害調査

(1) 鳥取市における一酸化炭素濃度

自動車排ガス測定のため、前年に引き続き2定点で毎月1日、62件1,071項目の自動測定を行った。

いずれも環境基準以下であり、年平均値において、観光物産センター及び東部自動車学校地点双方共、昨年より(それぞれ0.5ppm、1.2ppm)下回った。

表7 鳥取市内の一酸化炭素濃度

(1時間値ppm)

地点	項目	月												年間
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
日交旅行センター	範囲	6.0 1.0	5.5 0.9	8.7 1.0	7.8 1.0	10.5 1.0	6.6 1.0	7.7 0.2	11.2 1.0	11.1 0.9	9.1 1.0	3.1 0.2	4.2 0.6	11.2 0.2
	日平均値	2.7	2.3	3.6	4.6	4.8	3.9	2.9	4.5	3.9	3.6	1.6	2.2	3.4
	8時間平均値の最高値	2.8	2.9	5.0	6.3	6.5	5.1	4.5	6.6	5.6	5.1	2.1	2.9	6.6
東部自動車学校	範囲	3.0 0.1	1.6 0.1	3.8 0.8	3.3 0.1	4.9 0.1	3.2 0.2	2.3 0.1	3.5 0.1	5.3 0.2	4.0 0.5	2.8 0.4	2.9 0.1	5.3 0.1
	日平均値	1.2	0.5	2.1	1.6	2.0	1.6	1.0	1.2	1.6	1.6	1.1	1.1	1.4
	8時間平均値の最高値	1.8	1.2	3.0	2.4	3.9	2.9	1.9	1.8	2.3	2.1	1.4	2.0	3.9

(2) 環境週間行事における自動車公害調査

鳥取・米子・倉吉及び境港の四市の主要道路沿線での自動車公害の実態調査に参加した。

大気中の浮遊粉じん、自動車排出（一酸化炭素）ガス、自動車騒音、道路交通振動等 194 件 1,791 項目について測定を行った。

表 8-1 自動車公害調査結果

市名	測定項目 測定場所	測定年月日	自動車通過台数 (10分間) ()は大型車		騒音レベル 中央値 dB(A)		振動レベル 80%上端値 dB		浮遊粉じん量 mg/m ³	
			最高～最低	平均	最高～最低	平均	最高～最低	平均	最高～最低	平均
			鳥	鳥取駅前	61	156 (17)～128 (8)	146 (12)	66～65	65	49～47
	日交旅行センター前	61	263 (22)～156 (11)	196 (16)	71～68	70	53～42	48	0.04～0.02	0.03
	大村薬局前	6	149 (8)～91 (2)	130 (4)	69～60	65	48～43	45	0.05～0.02	0.03
	鳥取警察署付近	5	379 (26)～242 (16)	281 (20)	70～68	69	43～39	41	0.04～0.01	0.02
取	県庁前	5	181 (30)～124 (9)	143 (15)	66～64	65	51～44	47	0.02～0.01	0.02
	面谷外科前	5	226 (17)～132 (8)	192 (12)	68～60	65	50～45	48	0.04～0.02	0.03
倉	旧打吹駅前	61	89 (9)～69 (5)	81 (7)	68～65	67	41～35	38	0.01～ND	Tr
	倉吉駅前通り	6	230 (14)～146 (7)	169 (11)	69～65	67	49～45	46	0.01～ND	Tr
吉	宮川町ロータリー	12	252 (17)～178 (5)	198 (9)	68～65	66	50～46	47	0.02～ND	Tr
米	米子駅前	61	155 (24)～110 (15)	131 (21)	67～64	66	47～45	46	0.02～ND	Tr
	中国電力前	61	264 (37)～211 (23)	228 (33)	72～68	69	51～42	46	0.02～ND	0.01
	明治生命前	6	377 (40)～238 (21)	332 (34)	71～67	69	49～41	46	ND	Tr
	鳥銀米子支店前	6	383 (60)～287 (31)	351 (45)	73～69	71	50～47	49	0.02～0.01	0.01
	消防署付近(理髪店 タウン前)	11	379 (33)～152 (15)	247 (24)	70～61	67	47～45	46	0.02～ND	0.01
子	隠樹建築事務所前	11	335 (56)～297 (42)	315 (49)	73～68	71	44～42	43	0.01～ND	Tr
境	鳥銀境港支店前	61	128 (18)～89 (5)	108 (12)	67～64	66	49～45	46	0.03～0.01	0.02
	永井電機工業所前	6	108 (23)～81 (7)	97 (12)	66～62	63	47～39	43	0.02～0.01	0.01
港	山陰合銀境港支店前	13	63 (11)～49 (1)	57 (6)	62～52	56	38～33	35	0.02～0.01	0.01

注) ND:測定値が0.01 mg/m³未満 Tr:平均値が0.01 mg/m³未満

この結果騒音については、全測定点で騒音規制法第17条に規定する指定地域内における限度以下であったが、環境基準相当とみなされる値に適合した地点は鳥取市の(駅前・県庁前及び大村薬局前)3地点のみで、他の15地点は不適合であった。

また、振動については全測定点とも振動規制法第16条に基く指定地域内における道路交通振動の限度以下であり、一酸化炭素濃度についても鳥取市及び倉吉市の各測定点のいずれも環境基準値を下回る値であった。

表8-2 自動車公害調査結果(一酸化炭素濃度)

(単位:ppm)

市名	測定地点名 (測定月日)	所在地	1時間値の 最高値	1時間値の 1日平均値	1時間値の8時間 平均値の最高値
鳥取	日交旅行センター前 (61・6・20)	末広温泉町	8.7	3.6	5.0
倉吉	旧打吹駅前 (61・6・12)	明治町	2.7	1.3	1.8

5. 悪臭調査

悪臭物質排出の実態を把握するための行政委託検査について5件30項目を測定した結果は、し尿処理場(A規制地域)1施設で硫化水素が基準値を超えていた。

なお、今年度の測定結果は窓口受託検査及び自主検査を一括してあげた。

表9-1 発生源別悪臭物質濃度及び臭気濃度(敷地境界)

単位:ppm(STP)

発生源	項目	アンモニア	メチル メルカプタン	硫化水素	硫 化 メ チ ル	二 酸 化 メ チ ル	トリメチル ア ミ ン	アセト アルデヒド	スチレン	臭気濃度 [※]
		n R	n R	n R	n R	n R	n R	n R	n R	n R
畜	養鶏場	n R	—	—	—	—	—	—	—	—
	養豚場	n R	4 0.26~0.36	4 ND	4 0.0003~0.0027	4 ND	2 0.0007,0.0023	—	—	1 92
	養牛場	n R	1 0.21	1 ND	1 ND	1 ND	1 0.0006	—	—	1 10以下
	混合舎	n R	2 0.49,0.83	2 ND	2 ND	2 ND	2 ND	—	—	—
産	畜産 総計	n R	7 0.38 0.20~0.83	7 ND	7 0.0008 ND~0.0027	7 ND	5 0.0007 ND~0.0023	—	—	—
	し尿処理場	n R	8 0.41 0.16~0.68	8 Tr ND~0.0010	8 0.095 0.0008~0.54	8 0.0005 ND~0.0023	5 0.0003 ND~0.0011	—	—	5 10以下~930
ごみ処理場	n R	4 0.36 0.22~0.49	4 Tr ND~0.0004	4 Tr ND~0.0003	4 ND	4 Tr ND~0.0003	2 0.0013 0.0012,0.0013	—	2 ND	—
	環 境	n R	2 0.56 0.13,0.99	2 ND	2 0.0003 0.0003,0.0003	2 ND	2 ND	—	—	—
魚 缶 詰 工 場	n R	1 0.50	1 ND	1 ND	1 ND	1 ND	—	1 ND	—	—

(注) n:測定数 R:範囲 ㊦:算術平均値 ND:定量限界以下 Tr:平均値が定量限界以下
※:希釈倍数値

表9-2 発生源別悪臭物質濃度及び臭気濃度(敷地内及び建屋内) 単位:ppm(STP)

項目		アンモニア	メチルメルカプタン	硫化水素	硫化メチル	二酸化メチル	トリメチルアミン	アセトアルデヒド	スチレン	臭気濃度 [※]
養鶏場	n	6	6	6	6	6	6			6
	\bar{x}	3.7	Tr	0.015	Tr	Tr	0.0018	—	—	
	R	0.42~7.7	ND~0.0012	0.0005~0.055	ND~0.0005	ND~0.0003	0.0011~0.0028			10以下~66
養豚場	n	5	5	5	5	5	5			4
	\bar{x}	0.75	Tr	0.0041	Tr	ND	0.0018	—	—	
	R	0.24~1.5	ND~0.0006	0.0007~0.0092	ND~0.0005		ND~0.0046			10以下~87
養牛場	n	7	7	7	7	7	7			7
	\bar{x}	0.71	Tr	0.0009	0.0004	ND	0.0052	—	—	
	R	0.46~1.3	ND~0.0004	0.0007~0.0011	ND~0.0009		0.0009~0.0090			10以下~57
し尿処理場	n	2	2	2	2	2	2			2
	\bar{x}	0.73	0.0065	0.46	0.012	ND	ND	—	—	
	R	0.25、1.2	ND、0.013	0.070、0.84	ND、0.023					20、4200
ごみ処理場	n	1	1	1	1	1	1			1
	\bar{x}	0.08	0.0003	0.0007	ND	0.0004	0.0006	—	—	
	R									26
魚製造粉所	n	5	5	5	5	5	5			5
	\bar{x}	0.29	0.0048	0.0058	Tr	0.0004	0.019	—	—	
	R	0.12~0.42	0.0005~0.012	0.0012~0.012	ND~0.0004	ND~0.0010	0.0089~0.022			13~1,600
魚肉詰工場	n	1	1	1	1	1	1			1
	\bar{x}	0.14	ND	0.0004	ND	ND	0.0003	—	—	
	R									20

(注) n:測定数 R:範囲 \bar{x} :算術平均値 ND:定量限界以下 Tr:平均値が定量限界以下
 ※:希釈倍数値

〔窓口受託検査〕

1. 煙道排ガス測定

3事業所について5件、10項目の検査を行った。

2. 重油中の硫黄分析

事業所から委託を受けたC重油24件について検査を行った。

3. 悪臭調査

県下1市2町からの委託を受け13件、37項目の検査を行った。

4. その他

事業所で製造する製品の耐候試験用オゾン発生機の性能検査としてオゾン量を6件、6項目測定した。

2・6 研修指導

期 日	名 称 ・ 演 題	担 当 者	場 所
61. 5. 20～23	県立歯科衛生専門学校臨床検査実習	寺 谷 科 長	鳥 取 市 (衛生研究所)
61. 5. 27～30	〃	〃	〃
61. 9. 3	鳥取大学医学部教養課程施設見学	佐 藤 科 長	鳥 取 市 (衛生研究所)
61. 9. 17	〃	〃	〃
61. 12. 1	食品衛生年末業務打合せ会議 ・食品化学行政の現状	南 條 研 究 員	鳥 取 市 (県 庁)
62. 2. 6	鳥取県高教協学校保健連絡協議会東部会施設見学	深 澤 所 長	鳥 取 市 (衛生研究所)
62. 3. 12～13	昭和61年度保健所、衛生研究所試験検査技術研修会 ・公衆衛生院特別課程ウイルスコース受講から ・公衆衛生院特別課程細菌コース受講から ・生物モニタリングについて ・昭和61年度食品化学講習会から伝達講習 ・水質の生物指標及び植物プランクトン ークロロフィルαの検査法についてー ・情報処理研修会から	石 田 研 究 員 佐 々 木 研 究 員 林 田 研 究 員 南 條 研 究 員 山 内 研 究 員 畦 崎 研 究 員	鳥 取 市 (鳥取保健所)

2・7 会議・研修会・学会参加

期 日	名 称 ・ 課 題	参 加 者	場 所
毎 月 1 回	結核・感染症サーベランス解析委員会	深 澤 所 長 寺 谷 科 長 石 田 研 究 員	鳥取市、米子市 (隔月)
61. 4. 10	昭和61年度食品獣疫関係事業説明会	油 井 科 長 田中(球)研究員 藤 井 研 究 員	米 子 市
61. 4. 24～25	昭和61年度全国公害研究協議会中国・四国支部ブ ロック会議	深 澤 所 長 安 田 科 長	広 島 市
61. 4. 25	昭和61年度家庭用品安全対策打合せ	油 井 科 長 藤 井 研 究 員	鳥 取 市

期 日	名 称 ・ 課 題	参 加 者	場 所
61. 5. 10 ~ 11	第4回中国・四国ウイルス研究会	石田 研究員	岡 山 市
61. 5. 14 ~ 30	公害研修所研修（水質・土壌分析研修）	山内 研究員	埼 玉 県 （所 沢 市）
61. 5. 15. ~ 16	第40回地研中・四国ブロック会議	深 澤 所 長 佐々木 次長 寺 谷 科 長 油 井 科 長 平 野 科 長	徳 島 市
61. 5. 29	昭和61年度化学物質環境汚染実態調査打合会議	油 井 科 長	東 京 都
61. 6. 17 ~ 18	地方公共団体公害試験研究機関等所長会議及び第15回全国公害研協議会総会	深 澤 所 長	東 京 都
61. 6. 25	鳥取県健康対策協議会公衆衛生活動専門委員会小委員会	寺 谷 科 長	鳥 取 市
61. 6. 27	昭和61年度地方衛生研究所試験担当者講習会（薬事）	藤 井 研 究 員	東 京 都
61. 6. 27 ~ 28	昭和61年度全国地方衛生研究所所長会議及び昭和61年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	深 澤 所 長 佐々木 次長	東 京 都
61. 7. 11	昭和61年度環境放射能測定調査打合せ会	佐 藤 科 長 片山 課長補佐	東 京 都
61. 7. 18	監視測定機器維持管理担当者会議	佐 藤 科 長	東 京 都
61. 7. 22 ~ 23	衛生微生物技術協議会第7回研究会	寺 谷 科 長	熊 本 市
61. 7. 25	第29回鳥取県公衆衛生学会	深 澤 所 長 井上 研究員	鳥 取 市 鳥 取 市
	・ サイトメガロウイルスのIHA法による抗体保有状況		
	・ 唾液線腫張をきたす疾患からのウイルス分離	石田 研究員	
	・ 魚介類中のPCBと総水銀の分析結果について（第3報）	南 條 研 究 員	
	・ 湖山池、東郷池および中海におけるリンの特性について	田中(賢)研究員	
	・ 飲料水供給施設の水質とその地域差について	田中(長)研究員	
	・ 固定発生源ばいじん中の重金属成分について(2)	稲 村 研 究 員	
	・ 悪臭発生施設における臭気の実態調査(1)	〃	
61. 8. 1	昭和61年度と畜検査員研修会	寺 谷 科 長 石田 研究員	鳥 取 市
61. 8. 28 ~ 29	第32回中国地区公衆衛生学会及び中国地区衛生公害研究所所長会議	深 澤 所 長	山 口 市
	・ 魚介類中のPCBと総水銀の分析結果について（第3報）	南 條 研 究 員	

期 日	名 称 ・ 課 題	参 加 者	場 所
61. 9. 13 ~ 14	第19回日本薬剤師会学術大会 ・小児におけるHBVの関連抗原・抗体保有状況について ・母児間感染ウイルスの妊婦抗体保有状況 —風しんウイルス・サイトメガロウイルス ・HBウイルス—	田中(球)研究員 井上研究員	鳥 取 市
61. 9. 18	昭和61年度化学物質環境汚染実態調査ブロック別(西日本ブロック)打合せ会議	林田研究員 藤井研究員	北九州市
61. 10. 2 ~ 3	第23回全国衛生化学技術協議会年会	油井科長	長崎 市
61. 10. 7 ~ 8	全国公害研協議会中国・四国支部第13回大気部会	稲村研究員	広島 市
61. 10. 16	昭和61年度予防接種防疫業務担当者研修会	寺谷科長 田中(球)研究員	米子 市
61. 10. 16 ~ 17	全国公害研協議会中国・四国支部第13回水質部会	安田科長 山内研究員	高知 市
61. 10. 18	日本薬学会衛生化学調査委員会中国・四国部会研修会並びに委員会	油井科長	米子 市
61. 10. 20 ~ 31	第9回環境放射能技術研修	佐藤科長	千葉 市
61. 10. 28 ~ 30	第45回日本公衆衛生学会並びに第37回地方衛生研究所全国協議会総会及び次長・庶務・課長会議	深澤所長 片山課長補佐	仙台 市
61. 11. 7 ~ 8	第56回日本感染症学会西日本地方総会 ・ムンプス性髄膜炎からのウイルス分離状況とELISA抗体 ・CompglabacterとEcaliのin Vitroでの共生実験について	石田研究員 佐々木研究員	松山 市
61. 11. 19 ~ 21	昭和61年度食品化学講習会	南條研究員	東京 都
61. 11. 30	第17回山陰地区感染症懇話会集会 ・1986年のエコーウイルス7型感染症	石田研究員	松江 市
61. 12. 1	昭和61年度食品衛生年末業務打合せ会	寺谷科長 南條研究員	鳥取 市
61. 12. 3	昭和61年度全国公害研協議会秋季総会	深澤所長	東京 都
61. 12. 4	第28回環境放射能調査研究成果発表会	佐藤科長	千葉 市
61. 12. 4 ~ 5	第13回環境保全公害防止研究発表会 ・鳥取県内湖沼の栄養塩類の挙動について —湖山池、東郷池、中海の各態窒素を主として—	寛 研究員	東京 都
62. 1. 20 ~ 28	公害研修所「情報処理研修」	畦崎研究員	所 沢 市
62. 1. 13 ~ 2.6	国立公衆衛生院「特別課程 ウイルスコース」	石田研究員	東京 都

期 日	名 称 ・ 課 題	参 加 者	場 所
62. 2. 10	タール色素製剤の自己認証制度移行に係る説明会	油井科長 藤井研究員	鳥取市
62. 2. 13	昭和61年度鳥取県食品衛生監視員研修会	寺谷科長 藤井研究員 石田研究員	鳥取市
62. 2. 17	昭和61年度環境測定分析統一精度管理検討ブロック会議	宮原研究員	高松市
62. 2. 25～27	第4回環境科学セミナー	林田研究員 南條研究員	所沢市及び 東京都
62. 3. 12	昭和61年度保健所・衛生研究所試験検査技術研修会	寺谷科長 田中(球)研究員 井上研究員 石田研究員 佐々木研究員 油井科長 林田研究員 南條研究員 安田科長 山内研究員 田中(賢)研究員 笥研究員 平野科長 田中(長)研究員 畦崎研究員 稲村研究員 宮原研究員	鳥取市
62. 3. 12	全国家庭用品安全対策担当係長会議	藤井研究員	東京都
62. 3. 13	感染症対策会議AIDS対策指導者講習会	寺谷科長	東京都
62. 3. 14	エイズ従事者研修会	寺谷科長 田中(球)研究員 井上研究員 石田研究員 佐々木研究員	米子市

2・8 集談会の実施状況

科 名	年月日	題 名	発 表 者
微生物科	61. 4. 30	肺癌検診について ・肺癌検診の概要と症例報告	深沢所長
		「細菌コース」受講伝達 ・プラスミドとくにRプラスミドの概要説明	佐々木研究員
食品化学科	5. 23	魚介類中のPCBと水銀 生物モニタリング	南條研究員 林田研究員

科 名	年 月 日	題 名	発 表 者
水質調査科	6. 30	生物指標について 中海水質と海水との関係について	山内研究員 安田 科 長
水質環境科	7. 18	第29回鳥取県公衆衛生学会事前発表 唾液腺腫張をきたす疾患からのウイルス分離 サイトメガロウイルスのIHA法による抗体保有状況 湖山池、東郷池および中海におけるリンの特性について 飲料水供給施設の水質とその地域差について 固定発生源ばいじん中の重金属成分について(2) — サンプルング方法及びばいじん集じん灰中の濃度 — 悪臭発生施設における臭気の実態調査(1) — 臭気の官能試験について —	石田研究員 井上研究員 田中(國)研究員 田中(國)研究員 稲村研究員 稲村研究員
大気騒音科	9. 9	悪臭と官能試験について 食品貯蔵法の一般について — 近年CA貯蔵や氷温貯蔵の普及に伴う問題点について —	稲村研究員 佐藤 科 長
微生物科	10. 17	母児間感染ウイルスの妊婦抗体保有状況 — 風疹ウイルス、サイトメガロウイルス、HBウイルス — 小児におけるHBVの関連抗原抗体保有状況について	井上研究員 田中(國)研究員
食品化学科	11. 28	加工食品と添加物について	藤井研究員
水質調査科	12. 26	県内湖沼の栄養塩の挙動について 湖沼の富栄養化と内部生産について	笥 研究員 安田 科 長
大気騒音科	62. 1. 30	アスベストそのモニタリング結果	宮原研究員
水質環境科	2. 27	47都道府県の温泉、鳥取県の温泉	平野 科 長
微生物科	3. 27	エイズとその対策の現状	寺谷 科 長

2・9 検査の種類別衛生検査件数及び検査項目調べ（昭和61年度）

検査別 区分	検査項目														計		
	細菌検査	ウイルス・リクettia等検査	原虫・寄生虫等	結核	性病	食中毒	食品検査	水質検査	廃棄物関係検査	公害関係検査	一般環境	放射能	温泉（鉱泉）泉質検査	家庭用品検査		薬品	栄養
依頼先等区分	保健所	24	1,078	1		21	128	308	4		253			32			1,849
	項目	31	1,078	1		59	695	1,471	4	292				56			3,687
依頼によるもの	保健所以外の行政機関					50		1	53	5	93		1				203
	項目					50		4	307	50	392		33				836
医療施設	件数	66	593		59	346											1,064
	項目	66	616		59	664											1,405
学校及び事業所	件数							1	80	4	30		9		20	2	167
	項目							11	432	35	79		199		40	8	840
その他	件数		1			18			47		1						87
	項目		1			21			283		1					40	346
自ら行うもの	件数	282	4,629			168		34	150	3	8,944		1,018				15,468
	項目	845	7,818			196		538	1,216	24	121,490		9,823				143,195
計	件数	372	6,301	1	59	603	128	344	334	12	9,321		1,018	32	20	2	18,838
	項目	942	9,513	1	59	990	695	2,024	2,242	109	122,254		9,823	56	40	8	150,309